

三條南ロータリークラブ週報

Sanjo Minami Rotary Club



出席率 会員50名中33名

先々週の出席率 87.50%(3/13)

ヴィジター 分水RCより 氏田公基君 笠原次巳君

先々週のメイクアップ 3/19 次年度第4分区 及び

市内4RC会長幹事会へ

佐々木常行君 松崎孝史君

3/20 三條東RCへ

荒澤威彦君 平松修之君

星野健司君 池田 稔君

木村 譲君 野中 悟君

坂井範夫君

3/20 加茂RCへ 池田 稔君



会長挨拶

三條南ロータリークラブ会長

草野恒輔

こんにちは。

分水ロータリークラブより、氏田さん、笠原さん、ようこそおいでくださいました。ごゆっくりとお過ごし下さい。

2 回目の県央基幹病院基本構想の話です。

救急車出動の 15%が圏域外という最悪な状況に落ちて行く中で、平成 21 年 4 月に応急診療所が動き始め、光が見えてきた中、平成 21 年 8 月に、新潟県知事、副知事、市町村長、7 救急告示病院長、地元医師会会長を構成員として「救命救急センター及び併設病院のあり方検討会議・医療関係者合同会議」が開始されました。2~3 か月あれば十分と考えていましたが、結局、2 年かかって平成 23 年 2 月、「県央医療圏には救命救急センターを併設した病院が必要であること、併設病院の規模は県に一任し、県は 500 床規模の病院の実現に向け努力すること」などの内容が合意されました。

平成 23 年 12 月には病院の規模や診療機能のあり方を実務的に検討する「県央医療提供体制検討ワーキング会議」が設置されました。県央行政を除き、新潟大学・県医師会に参加を求めて、4 医師会・7 県央救急病院の話し合いがもたれ、「圏域内で一定程度完結できる体制を目指し、救命救急センター併設病院は圏域医療の拠点となり、高度・専門的診療機能を持つこと、病院の規模は 500 床程度とし、その為既存病院の合併とその他の病院の役割分担の再構築を行うこと」としました。

ワーキングチーム会議での検討結果をうけ、平成 24 年 2 月に 10 回目となる県央行政を入れたあり方検討会議・合同会議が開催され、「500 床規模の病院の設置及び既存病院の役割分担の再構築に向け、県が具体的な調整を行うこと、特に、新病院の経営主体等の調整役は県が行うこと」と合意されました。

四つのテスト

一言行はこれに照らしてからー

I 真実かどうか

II みんなに公平か

III 好意と友情を深めるか

IV みんなのためになるか どうか

ロータリーを
実践し



みんなに
豊かな人生を

国際ロータリー会長 ロンD. バートン [アメリカ]

第2560地区ガバナー 山 崎 堅 輔 [中 条]

第4分区AG 鈴 木 守 男 [三條東]

会 長 草 野 恒 輔

幹 事 平 松 修 之

S A A 齋 藤 嘉 一

事 務 局 〒955-8666 三條市旭町2-5-10

三條信用金庫 本店内

TEL 0256-35-3477 FAX 0256-32-7095

E-mail info@sanjo-minami.jp

URL http://www.sanjo-minami.jp

それを受け、平成 24 年 9 月には、県は、燕労災病院を運営する（独）労働者健康福祉機構、三条総合病院を運営する新潟県厚生農業協同組合連合会に、病院再編への参画を要請し、両経営主体から、積極的に参画したいとの回答を得ました。

平成 25 年 2 月、11 回目のあり方検討会議・合同会議で合意し、両病院を再編対象病院とし、500 床規模の基幹病院を整備すること、基幹病院の整備運営は公設民営を基本として検討することになりました。加茂病院の線が消えたこの時でした、某市長が血相を変えて怒鳴りまくったと同時に、三条・燕市長が不正発言だと返した途端、退場しました。

こうして、再編対象となる病院が具体化されたことから、平成 25 年 5 月より、新潟大学・県医師会・圏域内救急告示病院・地元医師会で構成する「県央基幹病院基本構想策定委員会」が設置され、これまでの検討結果を踏まえながら、燕労災病院と厚生連三条総合病院の再編を前提として、県央基幹病院の具体的な機能・規模、既存病院との役割分担・連携などを内容とする県央基幹病院基本構想が策定されることになり、平成 25 年 12 月 24 日にほぼ決着致しました。なお、設置場所については、政治的判断が必要となる為、行政に検討をお願いしており、これから、話し合いが持たれると思います。

長い 5 年間でしたが、今は、ほっとしています。次回にどんな病院になるのか、既存病院との関係はどうなるかをお話します。

2 句！ ヒマだけど 社長来るので 忙しい
宣伝に 社長出演 株下がり

委嘱状 伝達

熊倉 高志 会員

「ロータリー米山記念奨学生 カウンセラー委嘱状」

米山奨学生

姓、名・ミドルネーム：レジェス メンデス、ホセ ルイス

国籍：メキシコ

在籍校：長岡技術科学大学 修士 1 年



ようこそ三条南ロータリークラブへ



分水ロータリークラブ 氏田 公基 様 笠原 次巳 様

創立 40 周年記念式典 ご案内

[日 時] 2014 年 5 月 10 日 (日)
受付 12:30～ 記念式典 13:00～ 記念講演 14:00～ 祝賀会 15:15～
[会 場] 燕市分水公民館
[記念講演] 「長寿日本になった長野県の実情」
講師 伊那中央病院名誉院長 小川 秋實 (オガワ アキミ) 様
(友好クラブ・伊那中央ロータリークラブ)

5 月 10 日は、クラブメンバー一同、おもてなしの心で皆様をお待ちいたしております。よろしくお願い申し上げます。

ニコニコボックス

NIKO-NIKO BOX

～ 3 月 24 日 9,000 円
今年度累計 625,661 円～

分水 RC
氏田 君
笠原 君

5 月 10 日 (土)、当クラブ 40 周年式典に馬場パストガバナー、9 名の登録をいただき有難うございました。

5 月 10 日、よろしくお願いいたします。
いよいよ春でしょうか？ 春の終わりの季節が早く来るといいな・・・。

平 松 君

本日、永桶さんの卓話です。
また、分水 RC からお越しの氏田様、笠原様、ごゆっくりお過ごし下さい。

永 桶 君

本日、卓話当番です。たいした話ではないので、ごゆっくり お眠り下さい。

滝口君、銅冶君、西巻君

永桶さん、卓話ご苦労様です。
楽しみにしています。

「両親への感謝」

永桶 俊一 会員



こんにちは。ついに卓話の順番がまわってきました。私は、2009年1月に入会し、その年の4月に卓話をさせていただき、気がつけば5年ぶりになります。

私の父が南ロータリークラブに在籍中に、父から外部（身内）卓話ということで、2度お話しをさせていただきました。父から言われたことは2つあります。「専門的な話しはするな」と「だれもおまえの話を聞きに来ているわけじゃないし、たいした話しではないのだから、間違っても時間オーバーだけはするな」と言われました。

外部卓話の時は空調の話、水道管に使われている鉛管の話を、入会した年は太陽光発電による売電金額が50円弱になるということでタイムリーな話題で行ったわけですが、今回はネタがないので自分の話をさせていただきます。父の遺言通り、たいした話しではないので時間オーバーさせない

ように早目に切り上げたいと思います。

私は昭和35年生まれで、今年54歳になります。皆さん気が付かれているように、私の人差し指は途中からありません。これはあぶない人とケンカしたわけでも、機械に挟まれたわけでもありません。私の父は、昭和32年から自宅で水道屋を母と一緒に始めまして、私が2歳くらいの時に自宅にてのこぎりで切って作業していた時手を出して無くしました。私自身全く記憶がなく、気が付いた時にはありませんでした。

当時、小学校から皆そろばん学校へ通っていたので私も“三条そろばん学校”に通い、親指と中指で2級まで取りました。自分で言うのも変ですが指がなくても不自由は感じません。

裏館小から三中へ、そして、運よく長岡高専の機械工学科に入学することができました。ご存じのように高専は高校と短大をあわせた学校で、践力を身に着けて社会に送り出すことが目的で作られています。

最上級生の5年生は20歳で、中学から入学すると学校でたばこは吸っているは…、殿町で飲んでいるは…で、ものすごくおとなの感じがしました。私はバドミントン部に入り、5年生とは口を聞くのも怖い感じでした。夏の合宿になり午前・午後・夜と練習するわけですが、1年生はじゃまなだけなので、ひたすらランニング・基礎トレーニング・素振りの繰り返しになります。合宿が終わると打ち上げで、殿町の居酒屋で1～5年生全員で酒を飲んで1年生のほとんどが腰を抜かしたり便器とお友達になったりでしたが、だれも文句も言わないいい時代だったと思います。

5年生になり夏の大会も終わり、もう少し学生でいたかったので就職せずに大学へ行くことにしました。この時にはすでに長岡技大もできており、毎年卒業生の一部は進学していました。私は、地元はいやなので、千葉大学と山梨大学の編入試験を受けました。同じ年に何校も国立大学を受験できます。編入試験のさきがけだったので数学と英語の試験でしたが、大してできなかったように記憶していますが運よくどちらも合格しました。同期では北大、東京農工大に行った奴もいます。いまではこの編入試験ルートで国立に入るのは応募者も多くなり、難しくなっているようです。全く運がよかったと思います。

大学に3年次に編入して1年が経ち4年生になって、同じ研究室の友達が「俺は卒業したらオーストラリアへワーキングホリデービザで半年行ってくる」と言って毎日オーストラリアの話を聞くうちに、単純で感化されやすい私はアメリカへ1年でもいいから留学したい気持ちになりました。両親に相談したところ、意外にあっさり了解してくれ、父は東京である人を紹介してくれました。

その人から、アメリカは9月から新年度だから4～8月は留学専門の英語スクールに通って準備し、8月下旬からアメリカに行って3月に帰ってくるのが良いということになりました。それと、この3月で大学を卒業すると私の経歴に1年間のブランクがつくから1年間留年した方が良いというアドバイスももらいました。英語スクールも紹介してもらい、次は留年の段取りに入りました。編入なので4年生でも一般教養の英語の単位が残っていました。その英語の授業は一番前に座り一生懸命聞いて、かつテストも上々の点数を取れたので、先生に「この9月から半年アメリカへ行くので、今年度留年して、来年度の後期の先生の授業は1回も出席できないけれど来年の後期に単位を下さい」とお願いしたところ了解してくれました。良い先生とめぐりあった運の良さという時代だったと思います。

4月からは大学には全く行かず、渋谷の英語スクールに千葉から通っていました。そして、8月の下旬になりアメリカへ出発する前日に大学時代のバドミントン部の同期と新宿で飲みました。明日は出発ということで酒は控えめに飲んでいましたが、帰りの総武線は満員で周りも酒を飲んだ人ばかりで気分が悪くなり、どうにも我慢できず、千葉の津田沼駅で一度降りて外の空気を吸おうと思いました。ドアが開いた瞬間降りたのですが、勢いあまって反対側の線路にホームから落ちこちてしまいました。あの時上りの電車が来ていたらここでお話しはし

ていないと思います。そのまま救急車で千葉市内の病院へ運ばれ、運よくたいしたことなく、切れたところを3針程度縫ってもらい、アパートに帰りました。私はそれから海外に行く前日は酒を飲まないようにしようと決めています。

翌日夕方の方なので午前中に荷物を送り成田に行くと、英語スクールの同期が見送りにきてくれました。同期といってもみんな高校を卒業したばかりで9月からアメリカの大学へ行く人たちですから、年齢から言っても私が先輩になります。みんなから「永桶さん、なんで頭包帯ぐるぐる巻きなんですか」と聞かれ、まさか酒に酔っばらって線路から落っこったなんて言えず、転んだとかごまかして成田を飛び立ちました。

アメリカ カリフォルニア州サンフランシスコの近くのサン・マテオという町でホームステイをしました。1か月 500 ドルの生活費でした。ホストファミリーには2食付で月 300 ドルを払い生活していました。いまのレートなら「何て安いんだ」と思いますが、当時は 1 ドル 250 円ででしたから月 125,000 円、千葉の大学時代は 80,000 円だったのでちょっと高い感じでした。

アメリカの短大に通う毎日に慣れてきた 10 月中旬に家からホームステイ先に電話がかかってきました。こちらから電話をすることがあっても、両親とも英語はしゃべれないので電話はかけてこないものと思っていたので何事かと出てみますと、「卒業証書」が家に届いてどうなっているんだとの電話でした。その後大学の後輩に確認したところ、お願いしていた英語の先生の授業が前期しかなく、後期にないとわかった先生は仕方なく前期に単位をくれたため、自動的に卒業となりました。ですから私は半年留年の前期卒業生という経歴です。

2 月半ばまで短大に通って、そのあとは 2 週間くらいニューオリンズ、フロリダのキーウエスト・ディズニーワールド、ニューヨークを旅行しました。ホテルも現地についてから電話帳を見て予約したりで、金をかけない、まったく行き当たりばったりの旅行でしたが楽しい旅行でした。

その後東京に戻り、父が決めてくれた中堅の設備工事業者に就職しました。面接もなし、試験もなしで入社できたのは本当に父のおかげです。それと、当時はバブル真っ盛りで、私が担当した渋谷の駅裏で歩いて 10 分位の現場でも土地が坪 1 億円できて、就職は完全売り手市場だったのも運がよかったと思います。東京の設備業者で基礎的なことや現場を経験させていただき、4 年後に三条に戻ってきました。私が三条に戻ってきた時には、浄化槽や消雪・井戸が全くわからなかったのですが、それからはや 26 年が過ぎました。40 歳で社長になり社長をやって 13 年、ちょうど半分になりました。

息子も大学 1 年生で建築学科に進み、とりあえず継ぐ方向で進んでいます。親になって本当に思うのは、高専から大学はともかく、よく 1 年間英語スクールからアメリカへ行きたいというわがままにに応じてくれたことや就職を段取りしてくれたことに本当に両親に感謝しています。実際アメリカへ行って格好良く言えば見分を広めることにはなりますが、いまから思えば遊んでるようなもので、帰って 30 年も経てば英語もすっかり忘れてしまいました。運の良さと両親の好意に甘えて、ここまでやってこれたような気がします。

私のわがままを聞いてくれた父が私に言いたかったのは、会社をしっかりと継いで、信頼されるいい会社をつくれということかなと思っています。社会に必要とされる会社が生き残れると私も思っていますので、お客様にさらに信頼される会社にしていききたいと思います。

それと父と同じように息子が東京で修行できる会社に就職させてやることや彼が戻ってきた時にも会社の経営を盤石にしておくことも私の大事な仕事になってきました。

以上で私のたいしたことのない卓話を終わりにしたいと思います。ご清聴いただきまして有難うございました。

Birthday

4月のお祝い



誕生日



◆ 会員誕生	11 日	野水孝男君	20 日	池田 稔君
◆ 夫人誕生	8 日	野崎裕子（正明）さん	14 日	渡邊ノブ子（久晃）さん
	24 日	馬場美恵子（眞樹）さん		
◆ 結婚記念	5 日	坂本洋司君・満寿子さん	8 日	加藤峰孝君・さとみさん
	9 日	鈴木罔彦君・朝子さん	10 日	渡邊久晃君・ノブ子さん
	25 日	永桶俊一君・京子さん	26 日	野島廣一郎君・優子さん
	29 日	松崎孝史君・恵さん		

おめでとうございます

ときを超えて

あの日の一枚・

谷 晴夫 会員

私の長岡高専時代 /

...悠々山近くの下宿にて



三条南ロータリークラブ週報

2014. 3. 24

No.2112 No.30